



地域共生応援大使
ふっころ

あなたとフクシを結ぶコミュニケーション誌

福祉だより 信州

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 ふれあいネット信州 <https://www.nsyakyo.or.jp/>

vol.821
DEC.2024

編集・発行
長野県社会福祉協議会



CONTENTS

ちいきとあなたと、ともに暮らす…………… 2P

ほどよい距離感と多様性を大切にした
伊那市型地域共生社会「なから伊那暮らし」

特集 未来の立場から今を見る…………… 5P

あんみら通信

本人の権利擁護を支える成年後見…………… 7P

ふっころ Information

引きこもり支援 & 動物愛護の研究プロジェクト…………… 8P



「福祉だより信州」は
共同募金の配分金で
発行されています。



社まちづくりセンター

伊那市型地域共生社会「なから伊那暮らし」

ほどよい距離感と多様性を大切にしたい



伊那市社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター
三浦 正也さん



伊那市企画部地域創造課
地域振興係
原 智美さん

毎号、福祉の現場に新しい風を吹き込むスタッフをご紹介します。

伊那市社会福祉協議会

伊那市山寺 298-1 【電話番号】0265-73-2544

伊那市企画部地域創造課地域振興係

伊那市下新田 3050 【電話番号】0265-78-4111 (内線 2251)

伊那市では、「地域共生社会」の実現に向け、令和元年に官民共同で研究チームを設置し、令和2年に伊那市ならではの地域共生の姿「なから伊那暮らし」を発表しました。現在は、伊那市の住民や暮らしの多様性を表現した「いなからプロジェクト」の取組にも発展しています。



いなから暮らし

多様性・関係性？ 疑問？ つながりを自分が創造する

一人ひとりが地域共生を自分事として捉え、それぞれが意識することで『伊那暮らし』が心地よいものになっていく」という考え方を基本にしてイメージしています。

編み物をモチーフにしたマークには「イナ」の文字が隠れています。一人ひとり違ってOK、しかし、お互いに関わりあいながらひとつのイナという地域=心地よい織物を作っていくという想いを形にしました。一番上の段だけ「イナ」になっていないのは、まだこれから編まれる未来を表しています。色んな長さ(形)、色があるのは、様々な考え方や価値観があり、色んな人の存在や関わりで伊那市ができていくことをイメージして製作しています。

「なから伊那暮らし」と多彩な住民の活躍で地域の魅力を生む「いなからプロジェクト」



1



2



3



4



5

1 「研究会での2年間の意識醸成が今も仕事に生きている」と話す三浦さんと原さん。2 三浦さんが研究会で特に印象に残った活動「おにぎり作り」。「ゆめわーく」の利用者や親子連れなど幅広い立場や年齢層が参加し、自然な流れで自分の役割を見つけ、課題解決を行う地域共生社会の一つのかたちを体感したと話す。右下のリングは、地域の皆さんと伊那市に暮らす一人ひとりの「暮らし」について考える場として「なから伊那暮らし」を題材にした、伊那暮らしセッションを実施しており、参加者へ「なから伊那暮らし」を推進していく仲間の証として配布している。3 第2弾のトートバッグ。水の妖精「イーナちゃん」をおにぎりに例えた高校生のアイデアも多様性のひとつ。4,5 「いなからプロジェクト」第1弾で制作したクリアファイルは、SDGsを踏まえた紙製。42作品の応募から5作品が選ばれ、完成したグッズを作者から協賛企業へ渡した。企業と事業所のマッチングも兼ねた取組で、作者には使用料として謝金の支払いも。

多様な価値観を認める意識醸成

国が示す「地域共生社会」の実現には、地域住民や企業、行政等の連携による地域づくりが必要です。伊那市では「地域共生社会」という抽象的なイメージを具体化させて市民に伝えるため、令和元年から2年かけて官民共同で「伊那市型地域共生社会と住民意識の醸成を検討する研究チーム」を発足させました。メンバーは「『暮らし』の再認識 あなたの本気ぶつ付けてみませんか?」という告知を見て応募した40歳以下の社協や市役所職員、さらに当時の地域福祉コーディネーターと縁のあった市民、そしてアドバイザーである信州大学経済学部の井上信宏教授の12名。そのうちの1人だったのが、当時、多機能型事業所「ゆめわーく」で生活支援員を務めていた三浦正也さんです。市役所職員である原智美さんは、当時社協に派遣しており、グラフィックレコーディング（ミーティングの内容などをリアルタイムに絵や図形でまとめる作業）担当として研究会の様子を間近で感じてきました。研究チームは、グループワークなどを通し、1年目はメンバー同士が互いの多様性を知りつつ「地域共生社会」の方向性を検討。「50年後の未来人になる」というテーマのもと、県内社協初の試みとしてフューチャーデザインを用いたワークも実施しました。こうした活動を通し、三浦さんは「さまざまな立場や役割を持った方がいる中で多様な考え方や価値観を知って受け入れていくきっかけになり、職場での対話の重要性も再認識したりと、まさに意識醸成につながった貴重な経験ができた」と振り返ります。

伊那らしさを表現した「なから」

2年間で実施したワークは全16回。2年目は各メンバーが自由な表現で地域共生について語り、その中で出てきたのが、長野県で「だいたい、おおよそ」を表す「なから」という方言です。次第に暮らしの中のほどよいつながり＝「なから感」が大切だとの考えが固まり、最終的に伊那市が目指す地域共生社会の姿が「なから伊那暮らし 多様性? 関係性? 居場所? つながり」を自分が創造する」と決まりました。サブタイトルに「?」を付けることで、言い切るのではなく住民への問いかけを表現しています。

こうした経緯と経験を踏まえ、令和4年に現部署に異動した原さんが中心となって立ち上げたのが、伊那市のキャラクター「イーナちゃん」グッズの製作を通し、多様な住民が生きがいを持って地域づくりに参加する「いなからプロジェクト」です。第1弾では企業協賛を募り、障がいのある人のアート作品をモチーフにしたクリアファイルを作成。第2弾では地元高校生とトートバッグを製作し、現在は第3弾を企画中です。「住民一人ひとりが多彩な色を持つカラフルな存在で、グラデーションになって伊那を形作っているイメージからプロジェクト名を付けた」と原さん。さまざまな切り口で共に暮らす人々が活躍できる機会を創出しながら地域の魅力を再発見し、「なから」な距離感で住民の関心を地域に向けつつ地域共生社会の実現を目指していきます。

フューチャー・デザイン・ ワークショップの開催

将来世代からの視点を獲得し、未来から現在を俯瞰しました

フューチャー・デザインとは

私たちは、目の前の生活の豊かさを求めて暮らしがちです。しかし、そのことで将来世代へ引き継ぐべき資源を奪い、一方で、負担を大きくして将来に先送りしていないかという懸念があります。環境破壊、気候変動、財政赤字などの話題を見聞きするとそうしたことを実感せざるを得ません。

こうしたなか、今、「フューチャー・デザイン」が注目されています。「フューチャー・デザイン」とは未来に関わる仕組みや政策を考える時に、ワークショップにより未来人になりきって考えるという手法であり、将来世代をおもむかせるという理念でもあります。

本県では信州大学経済学部が中心となり、2017年から行政施策の検討過程などにおいてフューチャー・デザイン・ワークショップが多数開催されるなど、既に具体的な取組が進んでいましたが、昨年

3月、信州大学経済学部と長野県社会福祉協議会との間において協定が取り交わされ、「①フューチャー・デザインとソーシャルワークの融合に関する研究」、「②地域福祉活動へのフューチャー・デザインの実装」などについて連携して取り組んでいくこととなりました。



ワークショップの様子

これをきっかけに、福祉関係者有志が集まる「フューチャー・デザイン&ソーシャルワーク研究会」が主体となり、これまで2回のワークショップが開かれ、3回目がこのほど浅間温泉を舞台に開催されました。

1回目は2023年3月、社会福祉協議会職員が参加し、50年先の将来世代になって「一人ひとりがあんしんして暮らし続けることができる持続的な地域を実現するために、2023年のソーシャルワーカーは何をしなければならないか?」ということについて意見を出し合いました。2回目は同年12月、福祉従事者などに参加枠を広げ、さらに150年

先の未来から現代を俯瞰しました。

そして3回目の今回は、まち歩きの手法を組み入れ、参加者が実際に浅間温泉の街中を歩きながら、過去から引き継がれてきた地域の暮らしを発見し、そこに流れている時間のつながりを体感するワークを行いました。このように過去を振り返ったうえで、次に将来世代ワークとして、2174年の浅間温泉にはどのような地域資源があるかを話し合い、将来世代の思考を獲得した参加者は、過去と未来を行き来しながら、浅間温泉の地域に「残してくれてありがとう」、「つくってくれてありがとう」、「手放してくれてありがとう」ということを考え、具体的な意見を模造紙上に落

とし込みながら共有することでワークショップのまとめとしました。このワークショップに参加した社会福祉法人ちいさがた福祉会の中陽平さんは、「先ばかり見て過ごしていましたが、ワークショップで『過去を見て 未来を見据え 今を生きる』という言葉聞き、昔から大切にされていること、変わらずにあるべきものを大切にしながら未来に向かっていく視点を学びました」と話されました。

このワークショップを経験した参加者は、それぞれ利用者や相談者、あるいは地域と向き合い寄り添うなかで近視眼的になりがちな思考から解放され、これからの実践において真に必要なものを見つけることができたようです。



1回目のワークショップの様子



2回目のワークショップの様子

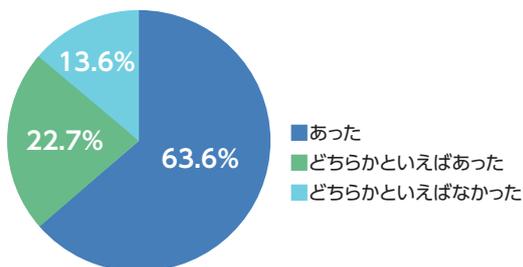


3回目のワークショップの様子

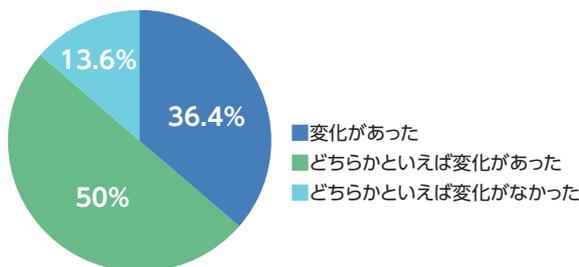
2回目のワークショップ参加者に対して、6か月後に行ったアンケート結果の一部



2023年12月のワークショップを経験した後で、あなたの普段の生活や業務の中で、将来世代や未来のことを意識する機会がありましたか。



2023年12月のワークショップの目的は「近視眼的になりがちなソーシャルワークの実践から脱却し、新たな視野を獲得すること」でした。ワークショップから半年を経て、あなたのソーシャルワークに変化はありましたか。



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	特定感染症		補償開始日から補償*		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

*特定感染症についても10日間の免責期間がなく、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入れ替え、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11315より抜粋)

令和6年度

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)		見舞費用付補償(B型)	
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円		
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円		
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円		
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円		
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円		
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円		
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円		
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円		
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度		
	傷害見舞費用			死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円	

保険期間 1年

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補基本 A型	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見 舞費用 B型	基本補償(A型) 保険料	+
		【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11446より抜粋)



本人の権利擁護を支える成年後見

成年後見制度は認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力が不十分であるため、財産管理や身上保護などの法律行為における意思決定が困難な方々について、本人の権利を守るために選任された後見人等により、本人を法的に保護して支援する制度です。

長野県社会福祉士会の権利擁護センターばあとなあながの(以下、「ばあとなあ」)では、令和6年4月1日現在、99名の会員が306件の後見人等を受任しています。今回は後見人等が関わることで本人の意思を尊重しながら、自立した生活を送れるように支援している事例をご紹介します。



事例1

ばあとなあ委員長 北原 俊憲さん

人と人を結ぶ、つながりづくり

90代の要介護1の男性。ご自宅で朝・昼・夕・夜と訪問介護を利用し、年金受給額を上回る介護サービス料が負担でした。後見人がサービス内容を見直し、新たな訪問介護事業所3社に契約を分散させたことで、介護サービス料を抑制することが出来ました。当初は複数の訪問介護員が関わることに戸惑いもありましたが、「嬉しいなあ」「温かいものが食える」と新たな“支援者”との出会いを喜ばれ、疎遠になっていた近所の従妹が後見人のつなぎにより毎日訪問してくれるようになり、たくさんの人とつながりながら生活されています。

事例2

ばあとなあ副委員長 小林 俊之さん

ご本人の生活で出来ないことを支援

60代の統合失調症がある男性。

朝晩、家事支援サービスを利用しながら平日は作業所へ通っていましたが、母親が亡くなってから急に気力をなくしたようで、何を聞いてもカラ返事でした。

本人に今後の希望を聞くと、母と暮らした今の自宅で生活していきたいとのこと。

母が行っていた薬の管理方法から、分かりやすい所へ薬を置いたり、薬に日付を書くなど、本人が今の生活を維持できるよう工夫しました。

事例3

ばあとなあ副委員長 鳥羽 弘幸さん

チームで意思決定支援

施設に長期入所しており、会話はできても、意思の疎通は困難な方。施設職員が本人のことをよく理解しており、施設内の様々な方とチームを組んでご本人の意思決定支援を行うように考えています。

しかし、すべてを施設にお任せするのではなく、月一回の定期訪問時に本人との面談や施設職員への聞き取りによって、本人の意思に沿った支援ができているか、成年後見人としての立場を意識しながら本人の意思表明を支援しています。

※事例はすべて個人情報等に配慮し、実例を加工して掲載しています。

引きこもり支援 & 動物愛護の研究プロジェクト

支援者仲間が見つかる！
必要な視点がいっぱい！
初めて参加でも大丈夫！

2022
スタート

午前
開催

ひきこもり支援 実践研究会

当事者の想いを真ん中にする勉強会 関係機関や地域とつながる交流会



2024 ひきこもり支援実践研究会

県内10圏域（県福祉事務所設置圏域）で実施



令和6年度テーマ
「わからない・わからない・わけられない」を考える

毎回午前・午後に分けて2会同日開催！

令和6年度

ワンウェル
フェア・
プロジェクト

社会福祉と 動物愛護管理の 連携のための研修会

午後
開催

ひと・どうぶつ・ちいさの幸せを考える



「終生飼養」
って知って
いますか？

どうして、
避妊去勢手術
をしないのか
しら？

みなさん動物
の事は、どこ
に相談に行く
のかしら？

独居高齢者が
入院した時、
ペットはどこ
に預けたいら
いいますか？

ネコがあんなに
増えると思わ
なかった！！

耳がカット
されている
ネコを見たよ！



みなさんの「力」が必要です！！

初めての方、つながりたい方、知りたい方のための
第3シーズンが始まります。各会場でお待ちしています。

今後の予定

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ① 大北 2月 3日(月) 大町合同庁舎 | ⑥ 諏訪 2月 18日(火) 諏訪合同庁舎 |
| ② 佐久 2月 5日(水) 佐久合同庁舎 | ⑦ 飯伊 2月 19日(水) エス・バード |
| ③ 北信 2月 6日(木) 飯山庁舎 | ⑧ 上小 2月 26日(水) 上田合同庁舎 |
| ④ 上伊那 2月 10日(月) 伊那合同庁舎 | ⑨ 松本 3月 5日(水) 松本合同庁舎 |
| ⑤ 木曾 2月 13日(木) 木曾合同庁舎 | ⑩ 長野 3月 12日(水) 長野保健福祉事務所 |

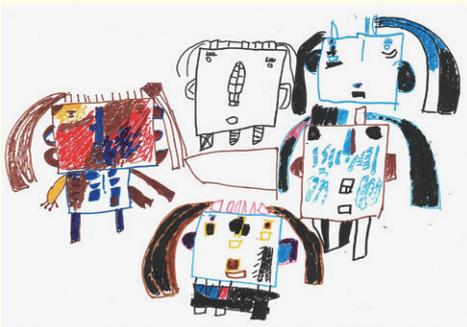
Coming soon!



過去の
取組は
こちら！



過去の
取組は
こちら！



『無題』2024年制作

作者：阿久津 憲雄
(72歳・伊那市在住)

この絵を見て何を描いたと思われるだろうか。ロボット?宇宙人?それとも SF 漫画のキャラクター?

阿久津さんは美術活動の際、何を描きたいのかを尋ねると「キンパツ好き。キンパツ描く」と返答があります。金髪女性の画像を用意して欲しいというリクエストなので、支援員はとびきり美人の画像をプリントして渡します。阿久津さんは嬉しそうな表情で受け取ると、顔を近づけてじっくりと観察しながら丁寧にマジックを走らせていきます。そして何故か頭部や胴体は四角くなり、風変わりな髪型の人物が生まれていきます。細部においても実に面白い形で構成されています。阿久津さんの目を通すといつも愉快的な表情に置き換わっていくから不思議です。しかしながら果たして置き換わっているのでしょうか。そもそも誰もが同じように見えていると思う方が不自然なことなのだ阿久津さんの絵を見る度に気付かされます。支援員は美人だと思って渡した画像は、阿久津さんの目にはどう映っていたのでしょうか。

アートサポーターをやっていて、こういう目を持つ作者との出会いはざわめく瞬間です。出来ることならその目を借りて世界を見てみたい、そんなことにざわざわと思いを馳せるのです。

(ながのアートミーティング アートサポーター 小川 泰生 取材)

ZAWAMEKU ART

ざわめくアート

Webサイトもご覧ください！

ご感想・お問合せ・掲載希望等は
下記へお寄せください

長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244/FAX 026-228-0130
E-mail info@nsyakyo.or.jp

長野県
社会福祉協議会



福祉・
介護べんり帖



長野県福祉研修共同サイト
きゃりあねっと



信州福祉・
介護のひろば

